

第5回全国相撲指導者研修会



第5回全国相撲指導者研修会（主催＝日本武道館・日本相撲連盟、後援＝スポーツ庁）は11月16～18日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開催された。全国で相撲を指導する小中学校・高等学校教員及び社会体育指導者並びにこれら指導者を対象とした中学校相撲授業における指導理論と指導法に関する研修会が行われ、講師・助講師7名、相撲を専門としない小中高校の教員を含む76名が参加した。

■1日目(11月16日)

開講式では、はじめに浦嶋三郎日本相撲連盟常務理事が主催者挨拶に立ち、「全国から学校教員、大学生、地域クラブの指導者など多くの方に参加いただきました。講師陣がしっかりと計画を練り、学校授業で安全に楽しく相撲の指導ができるよう、考えられた研修内容となっています。参加してよかったと思っただけの研修会にしたいと思っています。3日間、がんばってください」と述べた。

続いて三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が、「10月にロシアと日本の交流事業として、ハバロフ

スクに日本武道代表団を派遣し、最も盛り上がったのが相撲のワークショップでした。11月のインドネシア派遣日本武道代表団でも、相撲の団員がサイン攻めにあうなど、海外における相撲人気は絶大です。日本でも相撲授業を採用する学校が増える可能性は十分あります。本研修会で相撲の魅力、奥深さを学んでいただき、子供たちに相撲のすばらしさを伝えることができるよう、指導力を高めてください」と挨拶した。

開講式後は、『中学校武道必修化指導書』DVDの武道編を全員で視聴した。続いて、安藤均講師が「安全管理・指導」の講義を行った。

学校は生徒が安心して学ぶ安全な場所であり、安全の確保は、指導者の努力義務である。安全確保のポイントは、事前の予知。事故が起こらないだろうではなく、起こるかもしれないという意識を常にもつこと。押し・寄りの段階的な指導。立ち合いは接触した状態から始め、頭ではなく体をぶつけるなど、分かりやすい具体例をあげ、講義のまとめとした。

全員が大道場に移動して、上村裕一講師、村田安啓助講師による「グループ別ワークショップ」が行われ



生徒に模擬授業で「中腰の構え」を指導

た。8グループに分かれ、自己紹介、情報交換、相撲普及の可能性について話し合い、交流を深めた。

続いて、基本動作、基本となる技、簡易試合の実技研修が行われた。日本相撲連盟作成の動画を見ながら、基本動作の^{そんきょ}蹲踞、^{ちりちようず}塵手水、中腰の構え、四股、運び足、受け身を学び、次に基本となる押し、寄り、出し投げ、さらに遊びの要素を取り入れた簡易試合が紹介された。蹲踞相撲、陣取り相撲、押し合い相撲など、安全に楽しく相撲を体験できる内容で、参加者は大いに盛り上がった。

再び研修室で、桑森真介講師による「指導法概論」の講義が行われた。中学校相撲授業対応の指導書の紹介、中学校武道必修化の経緯、用具と施設、意欲を高めるための工夫、男女共学の留意点など、多岐にわたる内容をわかりやすく解説した。まとめとして、「相撲の教材としての魅力」について、専門家以外でも指導が可能、ケガが少なく初歩的段階でも試合ができる、ルールが簡明で判定が容易、身体接触を通して相手の力を肌で感じられ、連帯感、信頼感を得られる、などの特長をあげて、相撲授業採用校が増えるよう連盟として力を入れていきたいと結んだ。

初日の最後は、堀内弥助講師による「指導計画」の講義が行われた。日本武道協会発行の『中学校武道必修化指導書』をもとに、相撲の特性、相撲の教材としての魅力、学習指導のあり方を解説し、2日目に行われる模擬授業の指導計画作成のポイントを参加者に示した。

■2日目(11月17日)

南和文講師による「体育活動中の外傷・傷害、重大事故の特徴、およびその予防対策」の講義が行われ、重大事故の原因や具体例を示し、危険な技、組手について指導を徹底したいと連盟の取組みを説明した。

続いて、上村講師が中学校武道授業の「実践事例紹介」を行った。長野県木曾町中学校において、行っている授業事例を紹介した。木曾町は明治時代から相



簡易試合

撲が盛んであり、木曾町中では30年以上相撲を授業に取り入れている。長野県内で相撲授業を実施している中学校は数校あったが、部活指導型の練習から抜け出せず、教材研究も行われない状況が続き、平成23年には木曾町中1校のみとなった。この状況に危機感を持ち、これまで負の要素と考えられていた、「裸」「まわし」「裸足」への抵抗感、「大きいものが強い」という固定観念などを取り除き、新たな方向性を模索し、相撲を専門としない教員もできそうだと思う授業づくりを目指した。研究授業での発表を重ね、現在は木曾郡の5校で相撲授業が行われていると、報告した。

続いて、実践研究「グループワークによる指導案の作成」が行われた。6グループに分かれ、「中腰の構え」「四股」「押し」「寄り」「崩し」「礼法」のテーマで、それぞれ指導案を練った。

午後は「グループごとの指導の実践と観察」の実践研究として、勝浦市立勝浦中学校の生徒17名の協力を得て、1コマ15分の模擬授業が行われた。各グループが授業者を決めて、作成した指導案に沿って授業を展開し、安全に留意し、「生徒の主體的・対話的活動」を重視した指導内容を実践した。

その後、研修室で「研究協議」が行われ、各グループの責任観察者が意見を発表し、安藤、上村両講師がそれぞれ感想を述べる形で進められた。

■3日目(11月18日)

最終日は実践研修「審判法研修・簡易試合の体験」が行われた。浦嶋講師は、審判の心得として、ルールを守る、武道精神を大切にする、安全に気を配ることをあげた。

続いて、グループに分かれ、簡易試合を行った。チーム10名の団体戦で、指相撲・腕相撲・けんけん相撲などで真剣勝負が展開され、大いに盛り上がった。

閉講式では、桑森講師が講評、安井和男日本相撲連盟専務理事が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。